

民の間には「社會」の文字すら普遍せず、資本家階級の多くは勞働問題をこゝのみに全く無知たといつてしまふ。この時代に、社會政策を提唱し、勞働問題の解決に着手し、これかために當時先覺の官民有志が、敢然として心を傾けたことは、即ち社會運動史として正に開拓者の足跡であつて、その後歴史の段階は、一踏近代國家の成立に向つて進化し來つたことを實證する。こゝにわれわれは、公正なる史觀を後世に期待して疑わぬのである。

第二節 創立と性格

第一項 勞働運動者との關係

協調會は、床次内相の發意、徳川公爵等同右の主唱、

有志四百餘名の發起によつて成立し、而して原首相最此に賛成し、寄附金約六百萬圓、ほかに國庫補助金貳百萬圓を加えて原資金としたのである。この事實から、協調會の性格が官僚的且つ資本家的であるといふ印象を殘した。このやうである。こゝに資本主義主流を爲して民主思想未だ熟せず、上下ともに社會政策に理解を欠いてゐた當時の國情において、政府の推進力なくして新啓蒙事業を企畫することは、事實全く不可能のことであつた。その寄附金不払い、一録ある者は録を出さずといふ社會公正の原則により、戦時利得者の餘財を利用して勞資の啓蒙に當ることにしたのであつて、これは現實の問題として失當であつたといへぬ。こゝに更に本會